

国際政治経済学Ⅰ 期末試験 講評・解説

日時：2022 年 7 月 26 日（火）3 時限

授業教員：藤田将史

資料等の持ち込みと閲覧：禁止

講評

講義の内容から重要なポイントをそのまま訊く形の試験で、さらに選択形式なので、復習量によって得点に非常に大きな差が出ているように見えました（成績評価には調整後の得点を用いているため試験の得点とは一致しません）。授業中にメモをとり、時間をとって復習していれば、あまり問題無く得点できたのではないかと思います。

解説

講義内容に基づいて想定していた解答と得点基準は下記になります（ここでは箇条書きで要点のみ示しますが、実際には文章としてより詳しく説明することが必要です）。ただし、問題に対して適切な解答であれば、想定していたものと違ってても点をつけました。

問題 1 次の 2 問のうち、1 問を選んで解答せよ。その際、解答の最初にどの問題に解答しているのか分かるよう問題番号を書くこと。（10 点×1 問）

①19 世紀に成立した金本位体制が戦間期に崩壊したのはなぜか、理由を簡潔に説明せよ。

下記は 5 点ずつで満点

- 1) アメリカのリーダーシップの欠如
- 2) 国内における労働運動、社会主義政党の台頭

下記は 2 点

深刻な不況に直面した生産者や労働者が国際競争からの保護を要求

②GATT/WTO は第二次世界大戦後の貿易自由化に貢献してきたが、近年の WTO は機能不全が指摘されている。具体的にどのような問題が生じているのか、簡潔に説明せよ。

下記は 5 点ずつで満点

- 1) ラウンド交渉の停滞
- 2) 紛争解決手続きの停止

問題2 次の5問のうち、3問を選んで解答せよ。その際、解答の最初にどの問題に解答しているのか分かるよう問題番号を書くこと。(20点×3問)

①20世紀初頭までの自由主義国際経済秩序と比べ、第二次世界大戦後の自由主義国際経済秩序にはどのような特徴があるか、詳しく説明せよ。

下記は10点ずつで満点

- 1) 多国間での制度化 (GATT、IMF 等)
- 2) 埋め込まれた自由主義 (セーフガード、調整可能な固定相場制、金融支援等)

②比較優位説と標準的貿易理論は、国家が一般的には自由貿易から経済的利益を得られると予想する。それにも拘わらず、現実の政府がしばしば保護主義的な政策を採るのは何故か。1) 政治的理由、2) 経済的理由の2つに分けて、主な理由を挙げよ。

下記の二要素で20点、一方のみなら10点

- 1) 政治的理由 (どちらか一方のみでも良い)
 - 消費者が組織化されない
 - 輸入競合生産者の意向が反映されやすい政治制度
- 2) 経済的理由
 - 戦略的貿易理論

③国際貿易と国際投資の自由化は、先進国の国内所得格差にどのような影響を与えると予想できるか。国際貿易と国際投資に分けて、それぞれメカニズムと共に説明せよ。

下記の二要素で20点、一方のみなら10点

- 1) 貿易
 - ストルパー・サミュエルソン定理に基づいて予想すれば拡大
 - しかし経験的には技能訓練の有無等によって異なる
- 2) 投資
 - 低技能労働向けの職の減少、租税回避の増大と所得税・法人減税で拡大

④「民主主義国の方が権威主義国と比べ、貿易・投資が自由化された開放的国際経済体制に政治的に適応しやすく、その中で安定した経済発展を実現しやすい」という見解がある。この主張が妥当かどうか、貿易政策と通貨(金融)政策についてそれぞれ論じよ。

下記の二要素で 20 点（一方のみなら 10 点）

1) 貿易

民主主義国の方が勝利連合が大きく自由貿易と両立しやすいため妥当

2) 通貨（金融）

必ずしも妥当とは言えない

国際収支の調整（為替の安定）が難しい可能性

国内で金融危機に陥りやすい可能性

⑤経済グローバル化は先進国市民のイデオロギーにどのような影響を与えているか、そのメカニズムと共に説明せよ。

イデオロギー的分極化とそのメカニズムについて、下記の二要素で 20 点（一方のみなら 10 点）

1) 左派側への分極化

政府による福祉や市場への介入の希求

2) 右派側への分極化

下記の中から一つ以上

ナショナリズム・自民族中心主義による自律性回復の希求

白人労働者の凋落に対する伝統主義の希求

経済的損害による（心理学的な意味での）権威主義的傾向の強化